



飯田高校だより

第50号
令和2年7月31日
長野県飯田高等学校
学校評価委員会・教務係

「飯田高校だより」は、学校評価に関わる学校の情報を、保護者の皆様に出来るだけわかりやすくお伝えすることを目的に発行していきます。学校評価については、7月に「今年度の重点目標」、12月に「中間評価」、3月に「評価のまとめ」を掲載いたします。

本校は4つの学校重点目標を掲げ、その目標を達成するため日々様々な教育活動を行っています。安全安心な環境のもと、生徒の意欲的な学習活動、自主性・自立性・自律性のある自主活動を支え、開かれた学校づくりに取り組んでいます。この学校だよりに掲載してある学校評価表をご覧ください、本校の教育について忌憚のないご意見をお寄せください。なお、学校情報はホームページにも随時掲載いたしますのでご利用ください。

コロナ後の学校が目指すもの

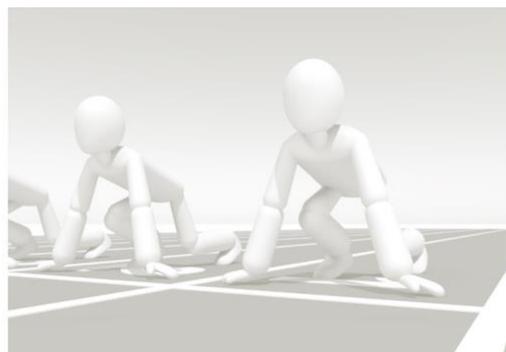
学校長 齊藤 則章

新型コロナウイルス感染症拡大のため、約一カ月の休校が明けた4月の前期始業式で、私は生徒に向けて以下のようなことを話しました。

「この突然の休校によって、それまでの皆さんの生活がいかに学校中心に回っていたか、いかに学校に依存していたかを再認識したにちがいありません。学校中心の生活に慣れてしまうと、だれかに決めてもらったり、何かをやってもらえるのが当然だと思い始めてしまう危険性があります。今回の休校は、図らずもそうしたことを考えるきっかけを与えてくれました。これからの時代は予測困難と言われていますが、頼るものがなくなったときに自分で判断したり、考えたりする力がますます必要になってくること示されています。今年は、そういった意味で学校を相対化して考え、学校からの「自立」ということを頭に入れながら日々の生活を送り、自分で考え、判断し、実行する力をつけてほしいと願っています。」

この後まもなく、再休校となり、再開後の7月には大雨による飯田線運転見合わせのため、さらに休校が重なる事態となりました。異例尽くしの年度初めとなったわけですが、上に述べたようなことは、ますます現実味を帯びて生徒のみならず、我々学校関係者に突き付けられているように思います。

本校では本年度、県の高校改革の一環として「3つの方針」を策定しました。学校活動の中核をなす「教育課程編成・実施方針」の3つの柱として、「時代に対応する確かな学力」「キャリア教育の実践」とともに「調和のとれた人材の育成」を掲げました。この3つめの柱の具現化が「自ら考え、判断し、実行する生徒」を育てることだと認識しています。休業続きのこの4カ月は、教育活動が思うように進まなかったわけですが、今後「3つの方針」に従って学校づくりに取り組む所存です。様々なご意見をお寄せいただきたいと思います。





放送での始業式：校長講話

今年度は昨年度末からの新型コロナウイルス感染予防をいかに徹底するか、からのスタート。近隣で予定されていた聖火リレーも取り止めとなり、始業式ならびに校長講話も放送での形をとりました。

それぞれに間隔を取った入学式で243名（普通科203名 理数科40名）の新入生を迎え入れたのも束の間、新型コロナウイルスの感染の拡大傾向を受けて再度休校に入った4月。見通しがなかなか立たず、登校もままならない状態が続きました。

‘密’回避を意識した入学式



分散登校での授業のようす3年生

連休が明けても事態は好転せず、それどころか春季総体を筆頭に予定されていたさまざまなイベントの中止決定が相次ぎ、校内にも少なからず重苦しいムードが漂った5月。学習面では単なる「課題」だけでなく、「リモート」、「zoom」、「動画配信」などさまざまなツールも積極的に導入されました。その一方生徒たちの笑顔や歓声等、本来校内に当たり前存在しているはずのものがない異常な日々でもありました。



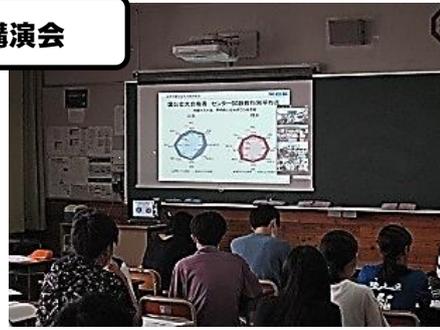
分散登校での授業のようす2年生



分散登校での授業のようす1年生

各学年分散での登校を経て、本格的に授業が再開された6月。学校が再開され、主役である生徒たちは戻ってきたものの、マスク着用や換気、校内イベントの中止や縮小化、「三密」を強く意識したこれまでは異なる生活が日常化しました。そのような状況下迎えた7月。活発な梅雨前線の活動による大雨の深刻な影響を受け、前半だけで5日間の臨時休校となってしまいました。授業再開後1カ月が過ぎて遅ればせながらも、ようやく今年度の学校生活が軌道に乗りかけていた時期だけに残念でした。

Web 進学説明会ならびに進路講演会



2年生選択科目説明会



1年生探究学習：JICA学習会



そのような厳しい事態が続いた中でしたが、生徒たちはさまざまな制約もある中でも1日1日を充実させようと各々頑張っています。現状できうる形で実施されている学年行事や進路に関するイベント等に前向き且つ積極的に参加するようすが見られています。

学年ごと開催されたクラス対抗大会（3年生6月29日、2年生7月3日、1年生7月2日）では素晴らしいプレイや互いへの声援はもちろん、輝く笑顔と歓声が久々に校内に響き渡り、大いに盛り上がりを見せました。クラブ活動も6月以降順次再開、新入班員を加えて日々熱心に活動しています。運動班は春季総体代替大会等で敢闘する姿がありました。先の見通しが立ちづらい状況が続きますが、そのような状況だからこそ、前向きな気持ちを失わずにいろいろなものを積み重ねていきたいものです。



3年生



2年生



1年生



< 今年度新任職員 >

齊藤 則章校長先生	学びの改革支援課より	笠原 百華先生 (英語)	新規採用
牧内 千明教頭先生	諏訪実業高校定時制より	関川 浩平先生 (英語)	阿智高校より
中村 和史先生 (国語)	新規採用	吉田 榮二先生 (国語)	南信教育事務所より
熊谷 匡通先生 (社会)	池田工業高校より	塩崎 正 先生 (社会)	飯田女子高校より
伊藤 彰朗先生 (社会)	飯田O I D E長姫高校より	竹折 正司先生 (事務)	下伊那農業高校より
牧島 則夫先生 (数学)	飯田風越高校より	小松 寛明先生 (事務)	駒ヶ根工業高校より
渡邊 秀謙先生 (理科)	新規採用		

「飯田高生 一瞥を望む K.M生」

コロナ禍（渦でも蝸でもない）、失われた二ヵ月。そして、7月飯田線運休に伴う5日もの休校。家でのように過ごすかが問われた、令和2年前半。

総体も甲子園も高松祭も無くなった。いつも素直で従順な諸君らは、どう行動したか。あつという間に、9月入学の声は掻き消された。消されてはいけないものは、飯田高校生としての矜持。ランボオは、詩「母音」で「Iは赤」と書いた。Iは飯田高校のI。

「書を捨てよ 町に出よう」という評論集があった。今は「書を捨てよ リモートに向かおう」になってしまったかも。いや、今こそ書を捨ててはいけない。そして、チャート、Focus Goldを解け。

非日常の世界が日常となっても、自然界に大きな変化はない。中庭の藤は幼木を育てて琵琶は実る。そこには日常がある。

藤井聡太の揮毫「探究」。この言葉が世にこれ程認知された状況下、課題を見つけて自ら行動し、知の探求を。が、細心の配慮なき実証研究が許されない今を憂う。

「例年なら、」が通用しない今、この大沢から足を踏み出すことが躊躇される。そして、新制度の下、如何にして勝てば良いのか。唯々祈るだけではない。共に進もう。知を探究しに。結果は真理の追求。不安と苦悩の中、怯懦を恥じ勇敢に歩め。



‘非日常’が続いた学校をいつもと変わらず見つめてくれた木々たち